

関西金属工業株式会社

コンマ数ミリの溶接を制する

期 納 相 談
力 有 画 企
信 自 画 企
技 有 術 オ
小 可 作 試
ロ ッ ト



高度な溶接技術が生む製品

業務内容

衛生面が重視される食品設備を製造

食品メーカーやコスメ企業で使われる、日本酒、ワイン、しょうゆ、化粧品等のタンクといった、製造設備を総合的に生産している関西金属工業。メーカーのニーズを聞き取りながら、そこでも使われない特殊な設備を設計・製造する個別生産が主力だ。例えば梅の実を大きさに別に分選別する機械のような、そのメーカーだけが求める装置をピンポイントで受注している。

強み

手作業とは思えない美的な溶接技術

食品タンクの場合、継ぎ目のない容器が必要とされる。継ぎ目に食材や液体が入り込み、雑菌が繁殖すると困るからだ。そんな精巧なタンクの製造を可能にしているのが、同社の「薄物の溶接技術」だ。

薄物とは、1mmにも満たない肉薄な金属板のこと。食品分野ではステンレスやアルミといった、腐食が少なく軽量の金属が多用されている。

この薄い金属を、手作業によって正確に美しく溶接するのが同社の得意技。美馬社長は「溶接スピードが遅いと金属板に熱が伝わってひずみます。かといって速すぎるとムラが出てしまう。そこを絶妙に加減する技と板金ノウハウが、当社の職人には備わっています」と語る。タンク裏側の仕上げりまで想定した隙のない溶接部分は、研磨するところが継ぎ目か分からないほど、ピツタリと接合している。

技術の応用

新型航空機の製造に関わる

この技術を応用し、同社は世界中の注目を浴びた新型航空機の製造に携わったことがある。担当したのは、航空機の部品の一つであるカーボンをカッティングするベッド。わずか0・5mm内の誤差に抑えてほしいというハードルの高い要望に応えた。「本来なら機械で削ったものを組み合わせるのですが、そうするとコスト的に非常に高価なものになります。ですが、当社には薄物の板金調整技術があったので、通常の半値で製作することができました」と美馬社長。

今後の展望

ワンストップ企業としてさらに幅広く

一つひとつの設備をつくるだけでなく、協力会社と連携しながら設計、配管、メンテナンスまで行う「ワンストップ企業」であることも特長の一つ。小ロットで細かい加工を要する商品分野がターゲットだと話す。

扱える金属のレパートリーも増やしつつ、掃除のしやすさ、異物混入しにくい設計、分解しやすさといった細かい要望に、これからも応え続けていく。



流量計台車等も手掛ける

COMPANY PROFILE

関西金属工業株式会社

大阪 23



日本酒設備の製造工場として産声を上げました。そこから発展し、飲料や食品、石鹸や化粧品といった分野にまで事業の幅を広げてきました。薄物溶接や板金を行っている会社は他にもありますが、少量多品種にえられるのが当社ならではの強みです。まだ構想段階ですが、今後は異業種と協力し、統一ブランドをつくっていきたくと思っています。

前例のない注文でも「人がつくれるものならできるだろう」と思い、挑戦しています。

代表取締役 美馬 徹さん



■主な事業内容

各種容器・タンク類・ホッパー・液送システム等の設計・製造・メンテナンス等

■主な取引先(納入先)

酒造メーカー、食品メーカー、化粧品メーカー、フィルターメーカー等

住所 / 〒581-0039
八尾市太田新町7-76
TEL / 072-949-0210
FAX / 072-948-3734
創業 / 昭和37年10月
設立 / 昭和43年5月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 13名

<http://kankin.com/>